秋田きらり支援学校は肢体不自由者・病弱者である児童生徒に対する教育を主として行う特別支援学校です。

地域支援だより

きらりＮｅｔ

令和３年１１月２４日
第１１８号
秋田県立秋田きらり支援学校
地域支援部

ＩＣＴ活用で「分かる」授業・「楽しい」学校

現在、学校の中で最も頻繁に使われているＩＣＴ機器は、大型モニターやプロジェクターのようです。いろいろな文字情報や画像、動画等を大きく見せる使い方です。単に大きく見せるだけではありません。色や形、位置やサイズをリアルタイムに変化させることで、さらに様々な効果が生まれます。こうした学習活動は、認知処理で言うと主に「入力」の部分です。つまり分かりやすく効率的に情報が入るということになります。他のＩＣＴ機器をいろいろと組み合わせて活用することで、入ってきた事柄を記憶したり判断・推理をしたりする「情報処理」の部分でも学習支援の効果が期待できます。さらに音声や動作等の形で「出力」する部分でも、障害のある子どもたちは機器の支援でできることが増えるので、ＩＣＴの活用は「分かる」授業のためのひとつの強力な武器となります。

しかし一方で、「ＩＣＴ機器の活用が苦手…」という教師が多いとも言われています。タブレット端末の操作等は、もしかすると子どもたちの方が慣れているかもしれません。教わる前から実に楽しそうに使っています。教師が子どもたちと一緒にＩＣＴを活用して授業を進めるにはどうしたらよいのでしょうか。プレゼンテーションのスライドを子どもたちに見せることで満足してよいのでしょうか。子どもたちが学校を卒業したあと生きていく社会は、我々大人も経験したことがない Society5.0 時代です。現在の社会でもＩＣＴは重要ですが、未来へ向けた学習環境づくりとしての意味がさらに重要だと考えられます。例えば、パソコンを活用した遠隔地との通信コミュニケーション、モーションキャプチャーを活用した創作ダンス、グリーンバックを使った合成映像、ロボットの操作による芸術作品の制作や接客サービス等々、今すぐ学校でできることとそうではないことがありますが、夢と想像は膨らみます。

「分かる」ってこんな楽しいことなのか、「伝える」ためにはこんな方法もあったのかというように、子どもと教師がいろいろな試行錯誤を繰り返す行為の過程こそが、ＩＣＴの活用なのではないでしょうか。80 年代のフジテレビで「楽しくなければテレビじゃない」というキャンペーンを打ち出したことがありました。これを借りると「楽しくなければ学校じゃない」は過言ではないかもしれません。　〈文責：跡部耕一〉

令和３年度　かがやきの丘ミニ学校展、きらりミニ学校展の開催について（１１月）

✨学校紹介パネル、児童生徒の作品や作業学習製品等を展示します✨

きらりミニ学校展⑦　　１１月１１日（木）～１２月　１日（水）【秋田銀行御所野ニュータウン支店】

秋田きらり支援学校は肢体不自由者・病弱者である児童生徒に対する教育を主として行う特別支援学校です。

病弱教育サポートセンターきらり☆の取組紹介

病弱教育サポートセンターきらり☆では、秋田市内の総合病院に入院する児童生徒を対象に、本人と保護者のニーズを受け、相談支援や学習支援を行っています。入院中の学習支援については、主治医から入院児と保護者に紹介していただき、相談支援としての面談、主治医との情報交換を経て、在籍する学校との連携の下で、治療に支障の無い範囲で実施します。昨年度発行の「きらり Net 107 号」でも病気の子どもたちへの ICT 機器の活用について紹介しましたが、今年度の取組として、在籍校と連携して学習支援を進めたケースを紹介します。

【秋田市内の総合病院に入院した中学生のケース】

☆相談支援（面談）の際に、在籍校の授業に参加したいという希望があった。
→ 在籍校に相談 → 教務主任の先生がサポートセンターを来訪し、遠隔授業実施に向けた打合せを行った。

☆GIGAスクール構想で整備された在籍校のPC端末を病院に届けられ、遠隔授業の設定を行った。 → サポートセンタースタッフが病室に待機し、学校と病室の接続を支援した。

☆在籍校のICT支援員がいる曜日に希望した2教科の授業についてTeamsでライブ配信を行った。配信時以外はeライブラリを使用した自習を設定した。また、合唱コンクールもリアルタイムで視聴した

☆週1時間程度、サポートセンタースタッフが在籍校の授業や自習の補完的な内容を担当する形で学習支援を実施した。

☆遠隔授業もサポートセンターの学習支援も出席の扱いになった。

在籍校による遠隔授業への継続的な参加 → 学習空白への不安の解消
在籍校・友達との継続的な関わり → 退院後のスムーズな復学

＊病室での実施が難しい（個室でない、wi-fi 環境がない等）場合は、病院との連携のもと、別の部屋を使用するなどし、オンラインでの学習支援を実施することができています。 〈文責：佐藤忠浩〉

教育専門監のコーナー

【「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実】

『目指すのは、主体的・対話的で深い学びによる授業改善』

「これからの子ども達にのぞむこと」
《育成を目指す児童生徒の姿》
〈指導要領前文〉

ここは子どものこと

「一人一人の児童（生徒）が、自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となる」ことができるようにすることが求められる

こっちが大人

☆児童生徒一人一人の多様な能力・適正・興味・関心・性格・学習経験等を的確にとらえ、児童生徒一人一人の発達を支援する

こっちも大人

そのための方法

「一体的な充実」

指導の個別化 選ぶこと
学習の個性化 決めること
カリキュラムマネジメント
個別最適化
協働的な学び
（個別最適な学び）
学習者視点のことば
cf：教師視点では「個に応じた指導」

☆多様な他者と協働・・・手段
他者を価値のある存在として尊重

ICT の活用
リアルな体験
どっちも大事 !!

☆すべての子どもの学びを止めないように、大切にしているのは、「選択」と「決定」。すべての子どもが楽しく学ぶことができるように児童生徒の「分かる」「できる」姿を目指し、一人一人が自己調整しながら学びを進められる授業の提案を心がけています。

参考：「個別最適化について考える」（公式 WEB サイト「note」） 〈文責：二階堂 悟〉

◇教育相談・見学の希望があれば、いつでも御連絡ください。
教頭 高橋 省子 地域支援部主任 大友 明希子
住所：〒010-1409 秋田市南ケ丘１丁目１番１号
E-mail：kirarisien@akita-pref.ed.jp
電話：018（889）8573 FAX：018（889）8575

「きらり Net」は本校ホームページから閲覧することができます。
http://www.kagayaki.akita-pref.ed.jp/kirari/index.html